

(様式1)

令和6・7・8年度「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」
学校改善プラン(1年次)【小学校】

【学校名等】

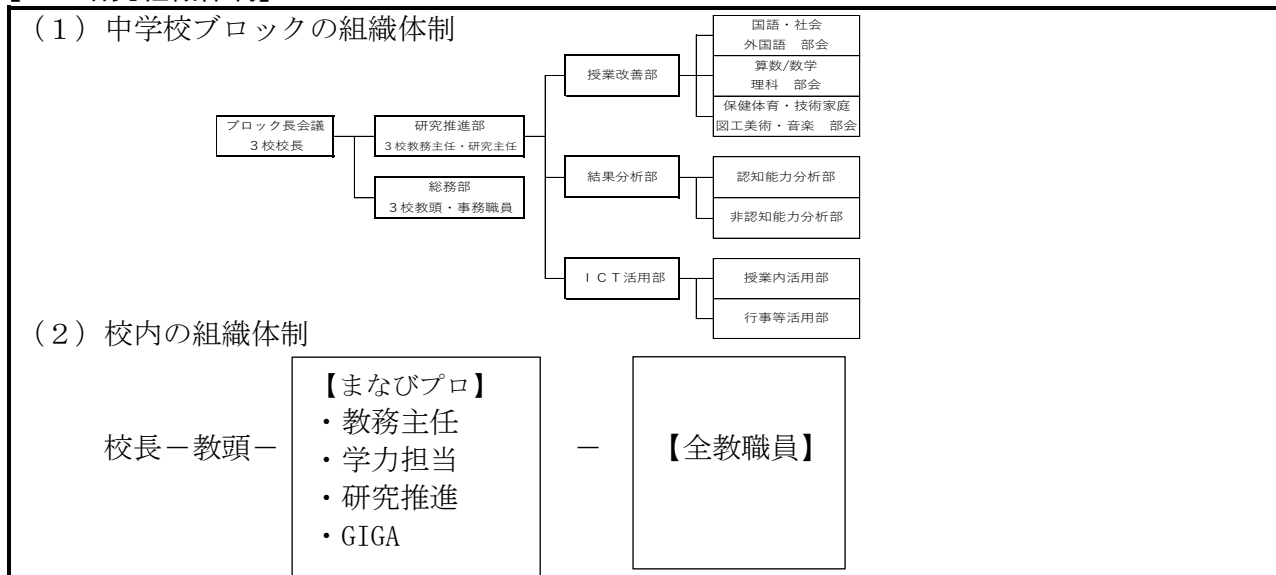
学校名	南丹市立園部小学校							校長名	伊丹 成嘉
学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特別支援	児童数	554 名
学級数	3	3	3	3	3	4	7		
事業担当教員名	梅澤 貴規								
① 中学校区で目指す子ども像	人とのつながりを大切にし、主体的に生きる子どもを育成しよう ～ 保幼小中が一体となって取り組む非認知能力の育成を目指して ～								
② 目指す子ども像	目指す児童像「考える子 やさしい子 努力する子 たくましい子」 研究推進におけるテーマ 「子どもが楽しい！教師も楽しい！ 算数科」 ～学習意欲を高める授業づくりから確かな学力の定着を目指して～								
③ 目指す子ども像に対する現状と課題	明るく元気で素直な児童が多い。 一方で、精神的に幼い児童も多く、自己中心的で自分の思い通りにならなかったら拗ねたり乱暴な言葉になったりする児童も少なからずいる。人間関係が構築されると挨拶ができる児童も増えてくるが、自分から気持ちの良い挨拶ができる児童は少ない。 学習については、教師の指示を理解し行動することができる。しかし、受動的に授業を受ける児童が多く、全体的に学習意欲はあまり高くない。特に粘り強く考えたり取り組んだりする学習には、課題が見られる。また、言葉の力や表現の弱さから、学習面では表現力に課題があり、生活面ではトラブルが起こることがある。 教師の説明や友だちの意見を最後まで集中して聞くことができない。								
④ 目指す子ども像に達するための仮説	【仮説１】 わかる！できた！の授業展開 児童が授業の中で、「わかった！」「できた！」と感じられるような授業を展開することで、「算数の授業が楽しい」と思える児童が増え、学習意欲が向上するのではないかな。 【仮説２】 非認知能力の向上 教師のあたたかい言葉かけや、振り返りの充実など、児童のメタ認知を高める教師からの働きかけによって、自己の成長を実感し、自己有用感など自分への自信が高まり、学習意欲の向上につながるのではないかな。 【仮説３】 ICT の活用 ICT をより効果的に活用することで、どの児童も「わかる」「できる」学習につながるのではないかな。また、個別最適な学習方法を工夫することにより一人一人の基礎学力を高めることができるのではないかな。								

令和6年5月1日現在

【1 研究主題】

他者とのつながりを大切にしながら、主体的に学習に取り組む児童の育成

【2 研究組織体制】



【3 研究計画・具体的な取組内容】

実施月	研究内容、研究方法、成果の公開 等
4 月	
5 月	校内研修（研究概要）
6 月	中学年授業公開・校内研修（ICT研修） 園中ブロック研究日（講師招聘希望）
7 月	
8 月	8月上旬＊学びのパスポート結果返却 第1回分析・活用研修会（講師招聘希望）
9 月	高学年授業公開・校内研修（ICT研修）
10月	10月上旬＊第2回分析・活用研修会 低学年授業公開・校内研修（ICT研修）
11月	高学年授業公開・校内研修（ICT研修） 園中ブロック研究日
12月	
1 月	研究校交流会（予定） 低学年授業公開・校内研修（ICT研修）
2 月	中学年授業公開・校内研修（ICT研修）
3 月	校内研修（まとめ）

【4 仮説及び成果を検証するための質問項目】

学年	質問番号	質問項目	概念	備考
4 年	(43)	人の話をじっくりと聞くことで、自分の考えがまとまることがある。	思考の柔軟性	
5 年	(43)	人の話をじっくりと聞くことで、自分の考えがまとまることがある。	思考の柔軟性	
	(52)	失敗してもあきらめずに何度も挑戦するほうだ。	チャレンジ精神	
6 年	(43)	人の話をじっくりと聞くことで、自分の考えがまとまることがある。	思考の柔軟性	

	(52)	失敗してもあきらめずに何度も挑戦するほうだ。	チャレンジ精神	
--	------	------------------------	---------	--

*** 5・6の分析の項目は削除しています。**

【7 分析結果を踏まえた指導改善、個に応じた具体的な手立て】

個に応じた具体的な指導・支援方法

○学力補充の時間を習熟度別に分け、担外も入って複数体制で指導をする。その際に、配慮が必要な児童に時間をかけて指導できるようにする。
 ○分析結果をもとに、学力や学習に取り組む姿勢に課題が見られる児童に対し、その背景を分析した上で具体的な指導・支援の目標や方法を明確にする。また、授業研究会など定期的にその児童の成長の過程をみる機会をもつ。
 ○教師の声かけを大切にして児童が意欲的に取り組んでいる場面や姿勢を、プラスの言葉にして伝え、児童に自覚させることでねばり強く取り組む姿勢や学習への意欲など非認知能力の変容を図る。

集団としての具体的な指導・支援方法

○ICTを活用した授業をどの学年もほぼ毎日行い、児童も楽しみながら授業に取り組んでいるが、自分で考え困難な問題にも立ち向かおうとする児童が少ないことに課題がある。授業のあり方をもう一度見つめ直し、丁寧すぎる指導、深く考えなくても分かる指導を改善していく必要がある。
 ○読む力に課題があることから、朝読書や週末読書を取り入れ、読みの力を伸ばしていく。
 ○授業や家庭学習において、発展的な課題にじっくりと取り組ませる。

【8 仮説の修正】

【仮説1】(追加) 何事にもねばり強く取り組むことで、「分かる!」「できる!」「やればできる!」と自分の成長を感じることができる課題を設定することで、学力の向上につながるのではないかと。

【9 具体的な取組内容の修正】

なし

【10 児童の変容（普段の様子から）】

- (1) 習熟度別に分け学習補充を行ったり、個別の補習を行ったり、個に応じた丁寧な支援を積み重ねたことで多くの児童は「やればできる」といった実感を通して、自信を持つことができた。そのため途中で投げ出さず、最後までやりきろうとする児童が増えている。実際に「チャレンジ精神」質問項目(52)「失敗してもあきらめずに何度も挑戦するほうだ。」では、6年生は肯定的な回答が昨年度の76.1%から82.5%、5年生は80%から89.2%になり、両学年でポイントの伸びが見られた。
- (2) 校内授業研究会を活性化し、「主体的・対話的で深い学び」の授業を意識した授業改善を行ってきたことで、「思考の柔軟性」の質問項目(43)「人の話をじっくりと聞くことで、自分の考えがまとまることがある。」では、6年生は昨年79.4%から82.5%へとポイントの上昇が見られた。
 5年生においては、昨年72.6%が69.9%となり、わずかにポイントの減少が見られたが、概ね上昇しているととらえられる。
- (3) 読む力を伸ばすことを目的に、朝読書や週末読書に力を入れて取り入れてきたため、読書に親しむ児童が増えた。

図書の貸し出し数（4～12月合計） R5年度：29582冊 → R6年度：30886冊

【11 2年次の研究構想】

- (1) ブロックで統一の重点目標を設け、その変容を学びのパスポートを活用し、分析する。
- (2) 分析結果を基に、ブロック全体での授業改善の方向性を共有し、各授業改善の具体的な取り組みにつなげる。
- (3) 各校で取り組んでいる独自の研究を交流し合い、より効果的な取組となるように系統的な整理を行う。例えば、探究的な学習において、小学校で行う地域学習などの様々な取組の中に探究的な要素を取り入れ、それらを中学校で行う課題解決型学習を行う素地として、中学校での取組につなげるようにする。
- (4) 個別最適な学びと協働的な学び、認知能力と非認知能力等、どちらかを育むのではなく、バランス良く育むできるように意識的に計画していく。

【園部小学校における具体的な取組】

- (1) これまで取り組んできたことを基本とした上で、残された課題の克服をするためにも、算数科を基軸として、教科、領域の横断的な取り組みにも力を入れ、学力の向上と非認知能力の変容を目指す。
- (2) 全校標準テストを実施し、一人一人の学力実態を経年分析する。
- (3) 行事や特別活動、日々の学習でどういった非認知能力を伸ばすのか等を児童にも考えさせることで、児童にも非認知能力を認識させるような取組を行う。